

佳作

夢に向けての挑戦 福島県郡山市立小原田中学校 2年 山口 華歩

私の将来の夢は、家庭科の教員になることです。その夢をかなえるために、いろいろな挑戦をしています。

「家庭科の教員になる」というと、「料理が得意なんだね」と言われることが多いです。でも正直にいうと、私は料理があまり得意ではありません。野菜を切るのも遅いし、火加減もうまくできません。そんな私ですが、どうして家庭科の教員になりたいと思ったのかには、三つのきっかけがあります。一つ目のきっかけは、姉の存在です。私の姉は、実際に家庭科の教員として働いています。家で授業の準備をしている姉の姿を、たまに見ています。どんな授業にするかを真剣に考えている姉の姿は、私にはとてもかっこよく見えました。姉は私のあこがれであり、目標です。

二つ目のきっかけは、家庭菜園です。私の家には小さな庭があり、季節ごとに野菜を育てていて、トマトやナス、ピーマンなど、いろいろな野菜を植えています。水をやったり、雑草を取ったりするのは手間がかかりますが芽が出て、つぼみがついて、実がなっていく様子を見るのはとても楽しいです。自分で育てた野菜を見て、「こうやって食べ物はできていくんだな」と感じたとき、家庭科の「食」についてもっと知りたいと思うようになりました。

三つ目のきっかけは、学校の家庭科の授業です。私は、裁縫の授業がとても印象に残っています。頑張って、トートバッグやティッシュケースを作つて、お母さんにプレゼントをしたときに、「すごく上手にできたね」とほめてくれました。とてもうれしくて、「また作りたい」と思いました。このとき、自分で作ったもので誰かに喜んでもらえることの喜びを知り、家庭科の教員になりたいという気持ちがさらに強くなりました。

しかし家庭科の教員になるためには、いろいろなことに挑戦しなければなりません。裁縫だけでなく、料理や人前で話すこと、そして勉強も頑張らなくてはなりません。私は、もともと人前で発表するのが苦手で、声が小さくなってしまったり、話す内容を忘れてしまったりすることがあります。でも、教員になるには人の前で話せるようにならないといけないので、少しづつ練習をしています。最近ではあいさつや、授業中の班活動で積極的に意見を言えるようになりました。裁縫にも挑戦中で、部活動のみんなにあげるマスコットを、羊毛フェルトで作っています。裁縫も最初は針の穴に糸が通らなかつたり、きれい

に縫えなかつたりしたけれど、やっていくうちに少しづつできるようになっていきました。いつかは洋服のリメークなどにも挑戦してみたいです。

料理に関しても、少しづつ挑戦しています。お米を炊いたり、卵を焼いたり、みそ汁を作ったりと簡単なことからはじめています。失敗することもありますが、上手にできたときに家族が「おいしい」と言ってくれると本当にうれしくて、また作りたいと思えます。苦手だった料理も、挑戦し続けることで、少しづつ「好き」に変わってきています。

将来家庭科の教員になったとき、きっと私のように「苦手だけどやってみたい」という生徒がいると思います。そんなとき、生徒に寄りそって、今の私の経験が役に立つかもしれないと思い、できなかったことをできるようにする楽しさや、挑戦することの大切さなどを伝えられるような、頼られる家庭科の教員になりたいです。生徒が家庭科を好きになれるような授業ができたら、とてもうれしいです。

私は、挑戦する中で気付いたことがあります。それは、努力をすれば少しづつでも成長できるということです。いきなり完璧にはできないけれど、諦めずに続ければ、必ず前よりもできるようになると思います。今の私はまだまだ勉強中です。料理も発表も、得意とはいえません。でも、夢に向かって一歩ずつ挑戦している自分のことを、少しだけ誇らしく思えるようになりました。挑戦することは、簡単なことではなくて、失敗することもあるし、思うようにいかないこともたくさんあるけれど、失敗するからこそ学べることがあると思うので、今できることを一つずつ積み重ねていきたいです。将来、たくさんの挑戦が待っていると思います。進学のための勉強や、家庭科以外の科目も頑張らなければなりません。高校、大学、そして教員免許を取るまでの道のりは簡単ではありません。でも、挑戦し続けることきっと夢に近づけると信じています。これからも、家庭科の教員になるという夢に向けて挑戦し続けていきたいです。